

★出生時両立支援助成金(仮)

政府は2016年度に男性社員が育児休業を取得した企業への支援として「出生時両立支援助成金」を新設する。過去3年以内に男性社員の育休取得者がいない場合。

- 1人目 中小企業(300人以下) **60万円**
- 大企業 **30万円**
- 2人目以降 一律 **15万円**

配偶者の出産から8週間以内に中小企業で5日以上、大企業で2週間以上の育休をとることが条件。

1企業に年度で1人を限度とし、5年間の時限措置。

厚生労働省の調べでは約3割の男性社員が育休したいと答える一方、実際の取得率は2.3%(2014年度)にとどまる。男性の家事・育児時間が長いほど第2子以降の出生割合が高い傾向がある。

★建設労働者の待遇改善

大手ゼネコンが工事現場で働く技能労働者の待遇改善に動き出した。清水建設や竹中工務店は下請け企業が技能労働者を雇う際に負担する社会保険料を工事費とは別建てで全員分支払う。労働者が社会保険に加入しやすい環境をつくるのが狙い。杭工事のデータ改ざん問題も広がる中、働く環境の改善と人手確保を工物品質向上につなげる。

とびや鉄筋工、左官など約340万人いる建設業の技能労働者のうち約3割の100万人が社会保険(厚生年金保険・健康保険・雇用保険)に未加入とみられる。

保険料は労働者の報酬の15%相当を会社と個人がそれぞれ払う仕組みで、労働者の平均年収は400万円です。その場合の個人負担の保険料は年60万円になり、手取りが減るのを嫌がる人もいます。また、会社も負担を渋る下請けもある。

ゼネコン各社は肩代わりの制度を導入する以前に払ってきた工事費には、社会保険料の負担のうち7割程度が含まれていたと想定し、各社とも残り3割分を追加で払う形となる。

※厚生労働省は保険料を払いたくない等の理由で厚生年金への加入をのがれている事業主については、刑事告発をするかどうかの判断基準を策定する方針を固めた。

★厚生年金基金相次ぎ解散

厚生年金基金は、日本の急成長期にサラリーマンの年金の上乗せの趣旨で設立したが、景気低迷等により予定利回りが確保できない等の理由で多くの基金が解散しており、千葉県でも以下の厚生年金基金が解散した。

解散日	基金名
2015. 1. 30	千葉県トラック厚生年金基金
3. 31	千葉県病院厚生年金基金
11. 20	千葉県石油厚生年金基金
11. 27	千葉県管工事業厚生年金基金 千葉県自動車販売整備厚生年金基金
2016. 1. 27	千葉県建設業厚生年金基金
1. 30(予)	千葉県商店街厚生年金基金
7月(予)	千葉県機械金属厚生年金基金
2017. 4月(予)	千葉県食品製造工厚生年金基金

★大卒内定 80.4% 5年連続上昇

今春卒業予定の大学生の昨年12月時の就職内定率は80.4%で、リーマンショック影響前の2008年80.5%と同水準だった。文部省は卒業時の内定率も前年96.7%を上回ると見ている。

昨年は経団連加盟企業が採用選考開始を4月から8月に遅らせるなど日程がずれた影響もあり10月1日の時点では66.5%と5年ぶりに前年を下回ったが、12月時点ではその影響は薄れたとみられる。

女子の内定率は82.0%で介護や保育などの求人増が目立ち、12月1日時点としては調査開始以来の最高を更新した。男子は79.0%。

大学生の内、大学院進学や留学を除く「就職希望率」は78.0%で前年を上回る。担当者は「雇用環境が良い時期に就職したいと考える学生が多いようだ」。今春卒業する高校生の就職内定率も11月末時点で85.8%と6年連続で改善した。



眉刷毛万年青
(まゆはけおもと)